****AZ-040T00A: PowerShell を使用した管理の自動化

Hyper-V 仮想マシンのビルド ガイド

ラーニング製品番号: AZ-040T00A

ベンダーの連絡先の電子メール: v-cokeze@microsoft.com

ベンダー サポート 契約の有効期限:

目次

[Virtual Hard Disk Requirements 1](#_Toc82108039)

[Section 1. MSL Images (not handed-off) 1](#_Toc82108040)

[Section 2. Course Specific Drives (for hand-off) 1](#_Toc82108041)

[Section 3. Repurposed Drives (for hand-off) (if applicable) 2](#_Toc82108042)

[Section 4. Rearm information (if applicable) 2](#_Toc82108043)

[Virtual Machine Settings 3](#_Toc82108044)

[Software 2](#_Toc82108045)

[User Accounts 4](#_Toc82108046)

[Configure Networking in Hyper-V Manager 5](#_Toc82108047)

[Creating Stand Alone Drives (Monolithic) 5](#_Toc82108048)

[Creating Course Specific Differencing Drives 6](#_Toc82108049)

[Create the Virtual Machine 6](#_Toc82108050)

[Start and Connect to the Virtual Machine 7](#_Toc82108051)

[Configure the Virtual Machine 7](#_Toc82108052)

[Configure DHCP 8](#_Toc82108053)

[To Prepare the Virtual Machine for Hand-off 10](#_Toc82108054)

[Start and Connect to the Virtual Machine 13](#_Toc82108055)

[Configure Network Settings 13](#_Toc82108056)

[Configure the Administrator profile 13](#_Toc82108057)

[Add Keyboard Layouts 15](#_Toc82108058)

[Add the computer to the Adatum.com domain 16](#_Toc82108059)

[Miscellaneous Settings 16](#_Toc82108060)

[To clear the event logs 17](#_Toc82108061)

[To Prepare the Virtual Machine for Hand-off 18](#_Toc82108062)

[Start and Connect to the Virtual Machine 20](#_Toc82108063)

[Configure Network Settings 20](#_Toc82108064)

[Add the computer to the Adatum.com domain 20](#_Toc82108065)

[Miscellaneous Settings 21](#_Toc82108066)

[To Prepare the Virtual Machine for Hand-off 21](#_Toc82108067)

このドキュメントの情報 (URL やその他のインターネット Web サイト参照を含む) は、予告なく変更される場合があります。 特に明記されていない限り、ここに示されている企業、組織、製品、ドメイン名、電子メール アドレス、ロゴ、人、場所、イベントの例は架空であり、実際の会社、組織、製品、ドメイン名、電子メール アドレス、ロゴ、人物、場所、またはイベントとの関連付けは意図されていません。または推論する必要はありません。適用されるすべての著作権法を遵守することは、ユーザーの責任です。著作権に基づく権利を制限することなく、このドキュメントの一部は、Microsoft Corporation の書面による明示的な許可なしに、いかなる形式または方法 (電子的、機械的、コピー、記録、またはその他の方法) で、またはいかなる目的でも複製、保存、または取得システムに導入することはできません。

製造元、製品、または URL の名前は情報提供のみを目的として提供され、Microsoft は、これらの製造元または Microsoft テクノロジでの製品の使用に関して、明示的、黙示的、または法定的な表現と保証を行いません。製造元または製品を含めることは、Microsoft による製造元または製品の保証を意味するものではありません。 リンクはサードパーティのサイトに提供されます。 このようなサイトは、Microsoft の管理下にありません。Microsoft は、リンクされたサイトの内容、リンクされたサイトに含まれるリンク、またはそのようなサイトに対する変更または更新について責任を負いません。Microsoft は、リンクされたサイトから受信した Web キャストまたはその他の形式の送信について責任を負いません。Microsoft は便宜上、これらのリンクをユーザーに提供しており、リンクを含めることは、サイトまたはそこに含まれる製品の Microsoft の承認を意味するものではありません。

Microsoft は、このドキュメントの主題をカバーする特許、特許出願、商標、著作権、またはその他の知的財産権を有している可能性があります。Microsoft からの書面による使用許諾契約書に明示的に規定されている場合を除き、このドキュメントの提供物は、これらの特許、商標、著作権、またはその他の知的財産に対するライセンスをユーザーに付与しません。

Copyright © 2021 Microsoft Corporation。すべての権限が予約されています。

[Microsoft および http://www.microsoft.com/about/legal/en/us/IntellectualProperty  
/Trademarks/EN-US.aspx](http://www.microsoft.com/about/legal/en/us/IntellectualProperty/Trademarks/EN-US.aspx) に記載されている商標は、Microsoft グループの企業の商標です。その他の商標はすべてそれぞれの所有者の財産です。

バージョン 1.2

仮想ハード ディスクの要件

セクション 1.MSL イメージ (引き渡しなし)

使用される基本 VHD (MSL によって作成)

学習製品で使用されているすべての MSL ベース仮想ハード ディスク (VHD) を一覧表示します。

| ベース仮想ハード ディスク |
| --- |
| ファイル名 |
| Base19D-WS19-1809.vhd |
| Base20E-W10-2004-Office2019.vhd |
|  |

使用される標準中間層 VHD (MSL によって作成)

学習製品で使用されているすべての MSL 中間層仮想ハード ディスク (VHD) を一覧表示します。

| Standard 中間層仮想ハード ディスク |
| --- |
| ファイル名 |
| MT19B-LON-DC1.vhd |
|  |

セクション 2.コース固有ドライブ (ハンドオフ用)

コース固有の差分 VHD (このコース専用に設計)

このコース専用に作成された学習製品で使用されているすべての仮想ハード ディスク (VHD) を一覧表示します。親 (中間層または基本イメージ) VHD を一覧表示します。 **注**: これらはハンドオフの一部になります。一覧表示されている各イメージについて、ビルド ガイドに対応するセクションがあることを確認して、イメージを作成します。

| 仮想ハード ディスク | Parent |
| --- | --- |
| ファイル名 | ファイル名 |
| AZ-040T00A-LON-DC1.vhd | MT19B-LON-DC1.vhd |
| AZ-040T00A-LON-SVR1.vhd | Base19D-WS19-1809.vhd |
| AZ-040T00A-LON-CL1.vhd | Base20E-W10-2004-Office2019.vhd |

コース固有のモノリシック VHD (このコース専用に設計) - Allfiles.vhd が含まれています

このコース専用に作成された学習製品で使用されるすべてのスタンドアロン (モノリシック) 仮想ハード ディスク (VHD) を一覧表示します。注: これらはハンドオフの一部になります。一覧表示されている各イメージについて、ビルド ガイドに対応するセクションがあることを確認して、イメージを作成します。

| 仮想ハード ディスク |
| --- |
| ファイル名 |
| AZ-040T00A-LON-DC1-Allfiles.vhd |
| AZ-040T00A-LON-SVR1-Allfiles.vhd |
| AZ-040T00A-LON-CL1-Allfiles.vhd |

セクション 3.再利用されたドライブ (ハンドオフ用) (該当する場合)

既存のコース差分ドライブ&中間層を再利用 (既存の MSL コースから利用)

既存のコースから再利用されたすべての VHD を一覧表示します。注: これらのイメージに変更を加えないでください。変更を加えると、コース固有のドライブになるため、適切なテーブルに一覧表示する必要があります。

| 仮想ハード ディスク |
| --- |
| ファイル名 |
| 該当なし |

セクション 4.リアーム情報 (該当する場合)

オペレーティング システムの仮想ハード ディスクのリアーム 設定

再インストールが必要な OS を持つブート可能な仮想ハード ディスク (VHD) をすべて一覧表示します。これらは、最上位レベルの差分ドライブまたはモノリシック イメージです。

| 仮想ハード ディスク (起動可能のみ) | OS | 再軍備  (Windows Server 2012の場合) |
| --- | --- | --- |
| ファイル名 | 使用されているオペレーティング システム | はい/いいえ - 実行回数 |
| なし | Windows Server 2019 | 差分ドライブ・レベルではリアームは実行されません。教室のセットアップ中に再ビルドされます。 |

仮想マシンの設定

Virtual Machines

このコース専用に作成された学習製品で使用されているすべての仮想マシン (VM) を一覧表示します。仮想マシンで使用されているすべての VHD を一覧表示します。 **注**: 一覧表示されている仮想マシンごとに、仮想イメージを作成するためのビルド ガイドに対応するセクションがあることを確認します。

| VM 名 | [コンピューター名] | VHD | インターネット アクセスが必要ですか? | メモリ | ネットワーキング | ISO がアタッチされていますか? | 説明& 設定 |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| *名前* | *通常、コースの番号のない仮想マシンの名前。* | *この仮想マシンに使用されるすべての VHD を一覧表示する (含める:)*   * *モノリシック ドライブ* * *コース固有の差分ドライブ* * *AllFiles* | *必要に応じて[はい]/[いいえ] を指定します* | *動的メモリを使用する場合は、min & max を一覧表示します。* | *エミュレートされた NICS の数を一覧表示します。NIC がレガシまたは合成の場合も一覧表示する* | *ISO の名前を一覧表示する (必要な場合)* | *学習製品における仮想マシンの役割について説明する* |
| AZ-040T00A-LON-DC1 | LON-DC1 | ハード ディスク: AZ-040T00A-LON-DC1.vhd  ハード ディスク: AZ-040T00A-LON-DC1-Allfiles.vhd | いいえ | スタートアップ: 4096 MB | ネットワーク: プライベート ネットワーク  合成 | なし | Windows Server 2019  Adatum.com ドメイン内のドメイン コントローラー |
| AZ-040T00A-LON-SVR1 | LON-SVR1 | ハード ディスク: AZ-040T00A-LON-SVR1.vhd  ハード ディスク: AZ-040T00A-LON-SVR1-Allfiles.vhd | いいえ | スタートアップ: 4096 MB | ネットワーク: プライベート ネットワーク  合成 | なし | Windows Server 2019  Adatum.com ドメインのメンバー |
| AZ-040T00A-LON-CL1 | LON-CL1 | ハード ディスク: AZ-040T00A-LON-CL1.vhd | いいえ | スタートアップ: 4096 MB | ネットワーク: プライベート ネットワーク  合成 | 該当なし | クライアント コンピューターのWindows 10 Enterprise  Adatum.com ドメインのメンバー |

#### 

Virtual Machines & モジュールのマッピング

コース内のすべてのモジュールと、それぞれに使用されているすべての仮想マシンの名前を一覧表示します。複数のラボがあるモジュールの場合は、ラボで仮想マシン列を分離します。 モジュールに仮想マシンを使用するラボがない場合は、N/A を配置します。

| モジュール | 仮想マシン |
| --- | --- |
| *モジュール番号を一覧表示する* | *このモジュールで使用されているVirtual Machinesを一覧表示します。* |
| 1 | * AZ-040T00A-LON-DC1 * AZ-040T00A-LON-CL1 |
| 2 | * AZ-040T00A-LON-DC1 * AZ-040T00A-LON-CL1 * AZ-040T00A-LON-SVR1 |
| 3 | * AZ-040T00A-LON-DC1 * AZ-040T00A-LON-CL1 * AZ-040T00A-LON-SVR1 |
| 4 | * AZ-040T00A-LON-DC1 * AZ-040T00A-LON-CL1 * AZ-040T00A-LON-SVR1 |
| 5 | * AZ-040T00A-LON-DC1 * AZ-040T00A-LON-CL1 |
| 6 | * AZ-040T00A-LON-DC1 * AZ-040T00A-LON-CL1 |
| 7 | * AZ-040T00A-LON-DC1 * AZ-040T00A-LON-CL1 * AZ-040T00A-LON-SVR1 |
| 8 | * AZ-040T00A-LON-DC1 * AZ-040T00A-LON-CL1 |
| 9 | * AZ-040T00A-LON-DC1 * AZ-040T00A-LON-CL1 |
| 10 | * AZ-040T00A-LON-DC1 |
| 11 | * AZ-040T00A-LON-DC1 * AZ-040T00A-LON-CL1 * AZ-040T00A-LON-SVR1 |

ClassroomConfiguration

| 仮想マシン名 | [コンピューター名] | インターネット プロトコル (IP) アドレス | ドメイン ネーム システム (DNS) サーバー | 既定のゲートウェイ |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| AZ-040T00A-LON-DC1.vhd | LON-DC1 | 172.16.0.10/16 | 172.16.0.10 | 172.16.0.1 |
| AZ-040T00A-LON-SVR1.vhd | LON-SVR1 | 172.16.0.11/16 | 172.16.0.10 | 172.16.0.1 |
| AZ-040T00A-LON-CL1.vhd | LON-CL1 | 172.16.0.40/16 | 172.16.0.10 | 172.16.0.1 |

ソフトウェア

次の表は、この学習製品の仮想マシンをセットアップするために必要なすべてのソフトウェア (バージョン、学習製品でテストされたバージョンが製品版か評価版か、およびソフトウェアを取得できる場所を含む) を示しています。コースに含まれるソフトウェアと同じ情報を、仮想マシンと組み合わせて使用する ISO イメージとして記録します。

このテーブルには、製品グループが製品の有効期間中にソフトウェアを含めることを承認したかどうかを追跡する列と、コンプライアンス検証を追跡する列も含まれています。

| VM 開発者が入力 | | | | | | FTE 要求アクセス許可で入力 | | コンプライアンス PM で入力 |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| ソフトウェア  &  バージョン | の一部としてインストールされる | ソースの場所 | インストールされている場所 | ソフトウェアの使用/正当性 | TFS の EULA  <*名* の> | ソフトウェア エントリ  Link | QERM  または  Cpx | ビルド ガイドの確認 |
|  | | | | | | | | |
| WMI Explorer 2.0.0.2 | 該当なし | https://github.com/vinaypamnani/wmie2/releases/tag/v2.0.0.2 | AZ-040T00A-LON-CL1 | ラボに必要 | 該当なし | [リンク](https://microsoft.sharepoint.com/teams/PDGVirtualization/_layouts/15/listform.aspx?PageType=4&ListId=%7B18B67922%2DC0EB%2D4CFF%2DA694%2D1AC76B079EF6%7D&ID=540&ContentTypeID=0x0100B80C984796C4B042B3DF5E99B64120C1) | 該当なし  低リスク – 一般公開 | Jamesco  9/23/2021 |
| PowerShell v7.1.3 | 該当なし | <https://github.com/PowerShell/PowerShell/releases/tag/v7.1.3>  https://docs.microsoft.com/en-us/powershell/scripting/install/installing-powershell-core-on-windows | AZ-040T00A-LON-CL1  AZ-040T00A-LON-DC1  AZ-040T00A-LON-SVR1 | ラボに必要 | 該当なし | [リンク](https://microsoft.sharepoint.com/teams/PDGVirtualization/_layouts/15/listform.aspx?PageType=4&ListId=%7B18B67922%2DC0EB%2D4CFF%2DA694%2D1AC76B079EF6%7D&ID=654&ContentTypeID=0x0100B80C984796C4B042B3DF5E99B64120C1) | 該当なし  低リスク – 一般公開 | Jamesco  9/23/2021 |

ユーザー アカウント

次の表に、学習製品で使用されるすべてのユーザーまたはグループ アカウントを示します。これらのアカウントは、MILS で承認された名前を使用してローカライズする必要があります。このコース専用に作成されたアカウントのみを一覧表示するか、既存のアカウントに対する変更を一覧表示します。

| ユーザーまたはグループ名 | ログオン名  (場所を含む) | パスワード (グループ アカウントの場合は NA) | その他のアカウントプロパティ |
| --- | --- | --- | --- |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |

セットアップ ファイル

次の表に、ソフトウェア セクションにまだ記載されておらず、仮想マシンの作成に必要なすべてのインストール ファイルを示します。(たとえば、AD を構成したり、共有を作成したりするスクリプト)。

| ファイルまたはフォルダー名 | ソース デポのパス |
| --- | --- |
|  |  |

Hyper-V マネージャーでネットワークを構成する

1. **サーバー マネージャー**で、**[ツール]** をクリックし、**[Hyper-V マネージャー]** をクリックします。
2. **Hyper-V マネージャー**で、ローカル コンピューターをクリックし、[**操作]** ウィンドウで [**仮想スイッチ マネージャー**] をクリックします。
3. [ **仮想スイッチ マネージャー** ] ダイアログ ボックスで、[ **新しい仮想ネットワーク スイッチ**] を選択します。[ **プライベート** ] が選択されていることを確認し、[ **仮想スイッチの作成**] をクリックします。
4. [ **仮想スイッチ** マネージャー] ダイアログ ボックスの [ **仮想スイッチ** のプロパティ] 領域で、次の情報を指定し、[OK] をクリック **します**。

* 名前: **プライベート ネットワーク**
* 接続の種類: **プライベート ネットワーク**

スタンドアロン ドライブ の作成 (モノリシック)

このセクションでは、この学習製品用に作成されたすべてのスタンドアロン ドライブの一覧を示します。これには、Microsoft ラーニング 基本イメージは含まれません。

AZ-040T00A-LON-DC1-Allfiles ドライブを作成する

1. **Hyper-V マネージャー**の **[操作]** ウィンドウで、[**新規**] をクリックし、[**ハード ディスク**] をクリックします。
2. 仮想ハード ディスクの新規作成ウィザードの [開始する**前**に] ページで、[**次へ**] をクリックします。
3. [ **ディスク形式の選択** ] ページで、[ **VHD** ] をクリックし、[ **次へ**] をクリックします。
4. [ **ディスクの種類の選択** ] ページで、[ **動的に展開]** が選択されていることを確認し、[ **次へ**] をクリックします。
5. [**名前と場所の指定**] ページの [名前] ボックスに「**AZ-040T00A-LON-DC1-Allfiles.vhd**」と入力し、[場所] ボックスに「**C:\Program Files\Microsoft ラーニング\AZ040T00\Drives**」と入力します。
6. [**ディスクの構成**] ページで、[**次へ**] をクリックします。
7. [**新しい仮想ハード ディスクウィザードの完了**] ページで、[**完了**] をクリックします。

コースの英語版に一致するフォルダー構造を作成し、フォルダー内にラボファイルを配置します。

AZ-040T00A-LON-SVR1-Allfiles ドライブを作成する

1. **Hyper-V マネージャー**の **[操作]** ウィンドウで、[**新規**] をクリックし、[**ハード ディスク**] をクリックします。
2. 仮想ハード ディスクの新規作成ウィザードの [開始する**前**に] ページで、[**次へ**] をクリックします。
3. [ **ディスク形式の選択** ] ページで、[ **VHD** ] をクリックし、[ **次へ**] をクリックします。
4. [ **ディスクの種類の選択** ] ページで、[ **動的に展開]** が選択されていることを確認し、[ **次へ**] をクリックします。
5. [**名前と場所の指定**] ページの [名前] ボックスに「**AZ-040T00A-LON-SVR1-Allfiles.vhd**」と入力し、[場所] ボックスに「**C:\Program Files\Microsoft ラーニング\AZ040T00\Drives**」と入力します。
6. [**ディスクの構成**] ページで、[**次へ**] をクリックします。
7. [**新しい仮想ハード ディスクウィザードの完了**] ページで、[**完了**] をクリックします。

コースの英語版に一致するフォルダー構造を作成し、フォルダー内にラボファイルを配置します。

コース固有の差分ドライブの作成

このセクションでは、この学習製品に固有の差分ドライブの一覧を示します。

AZ-040T00A-LON-DC1 差分ドライブを作成します。

1. Hyper-V マネージャーで、ホスト コンピューター名をクリックし、[操作] ウィンドウで [ **新規**] をクリックし、[ **ハード ディスク**] をクリックします。

仮想ハード ディスクの新規作成ウィザードの [開始する **前** に] ページで、[ **次へ**] をクリックします。

[ **ディスク形式の選択** ] ページで、[ **VHD** ] を選択し、[ **次へ**] をクリックします。

[ **ディスクの種類の選択** ] ページで、[ **差分**] をクリックし、[ **次へ**] をクリックします。

1. [**名前と場所**の指定] ページの **[名前**] フィールドの [**場所**] フィールド**に「AZ-040T00A-LON-DC1and**」と入力し、「**D:\Program Files\Microsoft ラーニング\AZ040T00\Drives**」と入力します。[**次へ**] をクリックします。
2. [**ディスクの構成**] ページで、[**参照**] をクリックし、親仮想ハード ディスクがあるフォルダーの場所を参照します。(たとえば**、C:\Program Files\Microsoft ラーニング\Base\Drives\MT19B-LON-DC1.vhd** など)。親仮想ディスク名をクリックし、[**開く**] をクリックして、[**次へ**] をクリックします。

[**新しい仮想ハード ディスクウィザードの完了**] ページで、[**完了**] をクリックします。

仮想マシンの作成

1. **Hyper-V マネージャー**で、ホスト コンピューター名をクリックし、[**操作]** ウィンドウで [**新規**] をクリックし、[**仮想マシン**] をクリックします。
2. 新しい仮想マシン ウィザードの [開始する **前** に] ページで、[ **次へ**] をクリックします。
3. [**名前と場所の指定**] ページの **[名前] ボックス**に**「AZ-040T00A-LON-DC1**」と入力し、[**場所] フィールドに**「**D:\Program Files\Microsoft ラーニング\AZ040T00\Drives**\」と入力し、[**次へ**] をクリックします。
4. [ **生成の指定** ] ページで、[ **ジェネレーション 1** ] を選択し、[ **次へ**] をクリックします。
5. [ **メモリの割り当て** ] ページの [ **メモリ** ] フィールドに「 **4096**」と入力し、[ **次へ**] をクリックします。
6. **[**ネットワークの **構成** ] ページで、ドロップダウン リストから [ **プライベート ネットワーク** ] を選択し、[ **次へ**] をクリックします。
7. **[Connect仮想ハード ディスク**] ページで、[既存の**仮想ハード ディスクを使用**する] をクリックし、[**場所**] ボックスに「**D:\Program Files\Microsoft ラーニング\AZ040T00\Drives\AZ-040T00A-LON-DC1.vhd**」と入力し、[**次へ**] をクリックします。
8. **を選択します。 [新しい仮想マシン ウィザード] ページを完了 し、[完了] をクリックします 。**
9. **Hyper-V マネージャー**で、Virtual Machinesで **AZ-040T00A-LON-DC1** を右クリックし、設定をクリックします**。**
10. **IDE コントローラー 0** を選択し、[**追加**] をクリックします。**AZ-040T00A-LON-DC1-Allfiles.vhd ファイルを**追加します。
11. **[OK]** をクリックして [Settings]\(設定) ダイアログ ボックスを閉じます。

仮想マシンの起動とConnect

1. **Hyper-V マネージャー**で、Virtual Machinesで **AZ-040T00A-LON-DC1** を右クリックし、[**スタート**] をクリックします。
2. **AZ-040T00A-LON-DC1** を右クリックし、**Connect**をクリックします。仮想マシンが起動するのを待ってから、**パスワード Pa55w.rd** を使用して **Adatum\Administrator** としてサインインします。

仮想マシンを構成する

Virtual Machinesでネットワーク 設定を構成する

1. 各仮想マシンのサーバー マネージャーで、[**ローカル サーバー**] をクリックします。
2. **イーサネット**の横にある IP アドレスを表すリンクをクリックします。
3. **[イーサネット**] を右クリックし、[**プロパティ**] をクリックします。
4. [ **イーサネットのプロパティ** ] ダイアログ ボックスで、[ **インターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4)]**、[ **プロパティ**] の順にクリックします。
5. [ **インターネット プロトコル (TCP/IP) のプロパティ** ] ダイアログ ボックスで、ラボに必要に応じてネットワーク設定を構成します。これらの設定が、上記の Classroom 構成テーブルにも一覧表示されていることを確認します。
6. [ **OK] を** 2 回クリックし、開いているウィンドウを閉じます。

DHCP を構成する

1. LON-DC1 で、[ **管理**] をクリックし、[ **役割と機能の追加**] をクリックします。
2. [開始する前に] ページで、 **[次へ]** をクリックします。
3. [インストールの種類の選択] ページで、[ **次へ**] をクリックします。
4. [サーバーの選択] ページで、[ **次へ**] をクリックします。
5. [サーバーの役割] ページで、[ **DHCP サーバー** ] チェック ボックスをオンにし、[ **機能の追加**] をクリックし、[ **次へ**] をクリックします。
6. [機能] ページで、**[次へ]** をクリックします。
7. [DHCP サーバー] ページで、 **[次へ]** をクリックします。
8. [確認] ページで [**インストール**] をクリックします。
9. インストールが完了したら、[ **閉じる**] をクリックします。
10. サーバー マネージャーで、[管理] の横にあるフラグをクリックし、[**DHCP 構成の完了**] をクリックします。[**次へ**] をクリックし、[**コミット**] をクリックし、[**閉じる**] をクリックします。
11. [ **ツール**] をクリックし、[ **DHCP**] をクリックします。
12. **[IPv4**] を右クリックし、[**新しいスコープ**] をクリックします。
13. [ **次へ**] をクリックし、関連するウィザード ページに次のように入力します。他のページの既定値をそのまま使用します。

* スコープ名: Adatum
* 開始 IP アドレス: 172.16.0.160
* 終了 IP アドレス: 172.16.0.190
* サブネット マスク: 255.255.0.0
* ルーター (既定のゲートウェイ): 172.16.0.1
* ドメイン名と DNS サーバー: IP アドレス: 172.16.0.10

1. DHCP ウィンドウを閉じます。

Enterprise ルート CA をインストールするには

1. サーバー マネージャーを開き、[役割と機能の追加] をクリックします。
2. [ロールの概要] で 、[ロールの追加] をクリックし、[次へ] をクリックします。
3. [開始する前に] ページで、[ **次へ**] をクリックします。
4. [インストールの種類] ページで、**[次へ]** をクリックします。
5. [サーバーの選択] ページで、[ **次へ**] をクリックします。
6. [サーバーの役割の選択] ページで、[Active Directory 証明書サービス] をクリックし、[機能の追加] をクリックします。[次へ] を 3 回クリックします。
7. [役割サービスの選択] ページで、証明機関と証明機関 Web 登録の両方が選択されていることを確認し、[機能の追加] をクリックし、[次へ] を 2 回クリックします。
8. [役割サービス] ページで、[次へ] をクリックし、[ **インストール**] をクリックします。
9. インストールが完了したら、 **移行先サーバーで [Active Directory 証明書サービスの構成**] をクリックします。
10. [資格情報] ページで、[次へ] をクリックします。
11. [ロール サービス] ページで、証明機関と証明機関 Web 登録の両方を選択します。[次へ] をクリックします。
12. [セットアップの種類] ページで、[CA Enterprise] をクリックし、[次へ] をクリックします。
13. [CA の種類] ページで、[ルート CA] をクリックし、[次へ] をクリックします。
14. [秘密キー] ページで、[新しい秘密キーの作成] をクリックし、[次へ] をクリックします。
15. [CA の暗号化] ページで、[次へ] をクリックします。
16. [CA 名] ページで、共通名として AdatumCA を入力し、[次へ] をクリックします。
17. [有効期間] ページで、「20 年」と入力し、[次へ] をクリックします。
18. [証明書データベース] ページで、[次へ] をクリックします。
19. [確認] ページで、[構成] をクリックします。
20. [結果] ページで、[閉じる] をクリックします。
21. [インストールの進行状況の結果] ページで、[閉じる] をクリックします。
22. HKLM\system\CurrentControlSet\Services\CertSvc\Configuration\AdatumCA\ にレジストリ エディターを開きます
23. 有効期間単位を 10 年に変更します。
24. 証明機関コンソールを開き、AdatumCA を展開し、[失効した証明書] を右クリックし、[すべてのタスクと発行] を選択します。[OK] をクリックします。
25. Web サーバー テンプレートの複製を作成し、Adatum Web Server という名前を付けます。有効期間を 10 年に構成します。認証されたユーザーが読み取りと登録を行えるようにセキュリティを構成します。Adatum Web Server 証明書を発行します。
26. コード署名テンプレートの複製を作成し、Adatum Code Signing という名前を付けます。有効期間を 10 年に構成します。認証されたユーザーが読み取りと登録を行えるようにセキュリティを構成します。証明書を発行します。

その他の設定

1. 既定のドメイン ポリシー GPO を編集します。[管理用テンプレート\system\power management\Video and Display 設定] で、[ディスプレイをオフにする (接続されている)] 設定を有効にし、時刻を 0 秒に設定します。
2. 上記のユーザー アカウントの表に一覧表示されているグループとユーザー アカウントを作成します。
3. WWL 標準に従って VM クリーンアップ スクリプトを実行します。

PowerShell をインストールする

* 1. 最新バージョンの PowerShell をインストールします。(この書き込みの時点では、7.1.3 です)。[PowerShell リモート処理を有効にする ] を除く すべてのチェック ボックスを有効にします。
  2. インターネットにConnectし、PowerShell 5.1 と PowerShell 7 の両方のヘルプを更新します。(Update-help)

ハンドオフのために仮想マシンを準備するには

1. VM が実行されている状態で、開発中に作成されたすべてのスナップショットをマージします。  
   **重要な注意**: スナップショットは、MSL 用の仮想マシンの最終的なハンドオフではサポートされておらず、VM にマウントされている ISO は切断する必要があります。
2. VM で、[ **スタート**] をクリックし、[ **すべてのプログラム**] をポイントし、[ **アクセサリ**] をクリックし、[ **コマンド プロンプト**] を右クリックし、[ **管理者として実行**] をクリックします。
3. インストール時にキーが使用された場合は、次の手順に従います。それ以外の場合は、#4.:  
   コマンド プロンプトで **slmgr -ipk AAAAA-BBBBB-CCCCC-DDDDDD-EEEEE** と入力します (これは例です。既存のキーを侵害されたキーに置き換えます。特定のオペレーティング システムの VRT にある **MSL\_VM\_Standards-Guidelines** ドキュメントで識別されているブロックされたキーのいずれかを使用し、Enter キーを押します。約 2 分後に、[**スクリプト ホストのWindows**] ダイアログ ボックスが表示されます。  
   **[スクリプト ホストのWindows**] ダイアログ ボックスで、[OK] をクリック**します**。

**重要**: VM を引き渡す前に、VM に少なくとも 1 つのリアームが残っていることを確認します。使用できるリアームの数を確認するコマンドについては、次の表を参照してください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| コマンド | 影響 | メモ: |
| slmgr –rearm | アクティブ化の状態をリセットします。コンピューターを Grace 状態にします。 | CPLS には 1 つ残っている必要があります。 |
| slmgr –dlv | 左のリアームの数を決定します。 | CPLS には 1 つ残っている必要があります。 |
| slmgr –ipk <*セキュリティ侵害/ブロックされたプロダクト キー*> | 以前にブロックされたキーを VM に挿入します | 開発中に VM がアクティブ化された場合に使用されます |

(**重要注**: *Windows Server 2012またはWindows 8を使用している場合は、番号 #6 にスキップ*します)

1. コマンド プロンプトで、「 **slmgr –rearm**」と入力し、Enter キーを押します。
2. **[スクリプト ホストのWindows**] ダイアログ ボックスで、[OK] をクリック**します**。
3. コマンド プロンプトを閉じます。
4. 仮想マシンをシャットダウンします (再起動しないでください)。
5. 仮想マシンを c:\Export にエクスポートします。
6. エクスポート フォルダー (C:\Export\VirtualMachineName\Virtual Hard Disks) から MSL 基本イメージと MSL 中間層 VHD を識別して削除します。
7. VM ごとに VM の事前インポート スクリプトを作成し、エクスポートされた仮想マシンのルート フォルダーに格納します。   
   このスクリプトは、削除されたベース/中間層イメージのインポート コンピューターにシンボリック リンクを作成します。VM の事前インポート スクリプトを作成する方法の詳細については、MSL\_VM\_Standards-Guidelinesドキュメントを参照してください。

**重要**: このビルド ガイドの「仮想ハード ディスク」セクションで、すべての中間層 VHD を特定していることを確認します。コース固有の中間層またはスタンドアロン (モノリシック ドライブ) を作成した場合は、それを引き渡す必要もあります。

1. C:\Export\ に移動し、各仮想マシンのエクスポート フォルダーを圧縮します。

AZ-040T00A-LON-SVR1 差分ドライブを作成します。

1. **Hyper-V マネージャー**で、ホスト コンピューター名をクリックし、[操作] ウィンドウで [**新規**] をクリックし、[**ハード ディスク**] をクリックします。
2. 新しい仮想ハード ディスク ウィザードの [ **開始する前** に] ページで、[ **次へ**] をクリックします。
3. [ **ディスク形式の選択** ] ページで、[ **VHD**] をクリックします。[ **次へ**] をクリックします。
4. [ **ディスクの種類の選択** ] ページで、[ **差分** ] を選択し、[ **次へ**] をクリックします。
5. [**名前と場所**] ページの [名前] ボックスに**「AZ-040T00A-LON-SVR1.vhd**」と入力し、[**場所**] フィールドに**「D:\Program Files\Microsoft ラーニング\AZ040T00\Drives**」と入力し、[**次へ**] をクリックします。
6. [**ディスクの構成**] ページで、中間層 (またはベース) 仮想ハード ディスク ファイルへの完全修飾パスを入力します。 **C** **:\** **Program Files\Microsoft ラーニング\Base\Base19D-WS19-1809.vhd** **、** orclick**Browse** など、親仮想ハード ディスクがあるフォルダーの場所を参照します。(たとえば、c:\Program Files\Microsoft ラーニング\Base\)
7. [新しい仮想ハード ディスクの完了] ウィザードで、[ **完了**] をクリックします。

AZ-040T00A-LON-SVR1 仮想マシンを作成する

1. **Hyper-V マネージャー**で、ホスト コンピューター名をクリックし、[**操作]** ウィンドウで [**新規**] をクリックし、[**仮想マシン**] をクリックします。
2. 新しい仮想マシン ウィザードの [ **開始する前** に] ページで、[ **次へ**] をクリックします。
3. [**名前と場所の指定**] ページの **[名前] ボックス**に**「AZ-040T00A-LON-SVR1**」と入力し、[**場所**] フィールド**に「D:\Program Files\Microsoft ラーニング\AZ040T00\Drives\**」と入力し、[**次へ**] をクリックします。
4. [ **生成の指定** ] ページで、[ **ジェネレーション 1**] を選択し、[ **次へ**] をクリックします。
5. [ **メモリの割り当て]** ページの [ **メモリ** ] フィールドに「 **4096**」と入力し、[ **次へ**] をクリックします。
6. **[**ネットワークの **構成** ] ページで、ドロップダウン リストから [ **プライベート ネットワーク** ] を選択し、[ **次へ**] をクリックします。
7. **[Connect仮想ハード ディスク**] ページで、[既存の**仮想ハード ディスクを使用**する] をクリックし、[**場所**] ボックスに「**D:\Program Files\Microsoft ラーニング\AZ040T00\Drives\AZ-040T00A-LON-SVR1.vhd**」と入力し、[**次へ**] をクリックします。
8. **[仮想マシンの新規作成ウィザードの完了]** ページで、**[完了]** をクリックします。
9. **Hyper-V マネージャー**のVirtual Machinesで、**AZ-040T00A-LON-SVR1** を右クリックし、[設定] をクリックします**。**
10. **IDE コントローラー 0** を選択し、[**追加**] をクリックします。**AZ-040T00A-LON-SVR1-Allfiles.vhd ファイルを**追加します。
11. **[OK]** をクリックして [Settings]\(設定) ダイアログ ボックスを閉じます。

仮想マシンの起動とConnect

1. **Hyper-V マネージャー**で、Virtual Machinesで **AZ-040T00A-LON-SVR1** を右クリックし、[**スタート]** をクリックします。
2. **AZ-040T00A-LON-SVR1** を右クリックし、**Connect**をクリックします。
3. 仮想マシンが起動するのを待ってから、[ **Hi there]\(こんにちは\** ) ページで [ **次へ**] をクリックします。
4. ライセンス条項ページで、[ **同意**する] をクリックします。
5. パスワード ページで、パスワード **Pa55w.rd** を指定します。[ **完了]** をクリックします。
6. **Pa55w.rd** のパスワードを使用して**管理者**としてサインインします。

ネットワークの設定を構成する

1. 各仮想マシンのサーバー マネージャーで、[**ローカル サーバー**] をクリックします。
2. **イーサネット**の横にある IP アドレスを表すリンクをクリックします。
3. **イーサネット**を右クリックし、[**プロパティ**] をクリックします。
4. [ **イーサネットのプロパティ** ] ダイアログ ボックスで、[ **インターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4)]**、[ **プロパティ**] の順にクリックします。
5. [ **インターネット プロトコル (TCP/IP) のプロパティ** ] ダイアログ ボックスで、ラボに必要に応じてネットワーク設定を構成します。これらの設定が、上記の Classroom 構成テーブルにも一覧表示されていることを確認します。
6. [ **OK] を** 2 回クリックし、開いているウィンドウを閉じます。

管理者プロファイルを構成する

1. **スタート**画面で、[**この PC**] を右クリックし、[**プロパティ**] をクリックします。
2. [ **コンピューターに関する基本情報の表示** ] ページで、[ **システム設定の詳細設定**] をクリックします。
3. [**システムのプロパティ**] ダイアログ ボックスの [**パフォーマンス**] で、[**設定**] をクリックします。
4. [ **パフォーマンス オプション]** ダイアログ ボックスの [ **視覚効果** ] タブで、[ **最適なパフォーマンスを得るための調整**] を選択し、[ **OK]** をクリックします。
5. [ **システムのプロパティ** ] ダイアログ ボックスで、[OK] をクリック **します**。
6. タスク バーを右クリックし、[**プロパティ**] をクリックします。
7. [ **タスク バーのプロパティ** ] ダイアログ ボックスで、[ **通知領域**] をクリックします。
8. [ **通知領域アイコン** ] ページで、[すべての **動作]** を **[非表示] アイコンと通知**に設定します。
9. [ **システム アイコンのオンとオフを切り替える**] をクリックし、[アクション センターを除くすべての **動作** ] を **[オフ]** に設定します。[ **OK] を** 2 回クリックします。
10. [ **ジャンプ リスト** ] タブの [ **プライバシー**] で、両方のチェック ボックスをオフにし、[ **OK]** をクリックします。
11. 上部の階層リンクで、[**コントロール パネル**] をクリックします。
12. コントロール パネルで、[**システムとセキュリティ**] をクリックし、[**アクション センター**] をクリックします。
13. [**アクション センター**] ダイアログ ボックスの [セキュリティ] で、[**Windows Updateに関するメッセージをオフ**にする] をクリックします。
14. [ **アクション センターの設定の変更**] をクリックし、[ **メッセージをオンまたはオフにする** ] ページで、使用可能なすべてのチェック ボックスをオフにします。[ **OK] をクリックします**。
15. 上部の階層リンクで、[**コントロール パネル**] をクリックします。
16. コントロール パネルで、[**ネットワークとインターネット**] をクリックし、[**インターネット オプション**] をクリックします。
17. [ **インターネットのプロパティ** ] ダイアログ ボックスの [ **ホーム] ページ**で、「 **about:blank」**と入力します。
18. [ **閲覧履歴**] で、すべてのチェック ボックスをオンにし、[削除] をクリック **します**。
19. **[OK]** をクリックします。
20. 上部の階層リンクで、[**コントロール パネル**] をクリックします。
21. コントロール パネルで、[**システムとセキュリティ**] をクリックし、[**自動更新のオンとオフを切り替える**] をクリックします。
22. [**更新プログラムWindowsインストールする方法の選択**] ページで、[**更新プログラムを確認しない (推奨されません)]** をクリックし、[**OK**] をクリックします。
23. [ **管理ツール**] をクリックし、[ **コンピューターの管理**] をダブルクリックします。
24. [ **ローカル ユーザーとグループ]** を展開し、[ **ユーザー**] をクリックします。
25. **[管理者**] を右クリックし、[**プロパティ**] をクリックします。パスワードを期限切れにならないように設定し、[**OK]** をクリックします。

キーボード レイアウトの追加

1. コントロール パネルで、[言語の追加] をクリックします。
2. [**言語設定の変更**] ページで、[**言語の追加**] をクリックし、次の言語を追加します。

* 簡体中国語
* 繁体中国語
* チェコ語
* デンマーク語
* オランダ語 (オランダ)
* 英語 (イギリス)
* フランス語 (フランス)
* フランス語 (カナダ)
* フランス語 (スイス)
* ドイツ語 (ドイツ)
* ドイツ語 (スイス)
* イタリア語 (イタリア)
* 日本語
* 韓国語
* ポーランド語
* ポルトガル語 (ブラジル)
* ポルトガル語 (ポルトガル)
* ロシア語
* スペイン語 (アルゼンチン)
* スペイン語 (スペイン)
* スウェーデン語 (スウェーデン)

1. **[詳細設定]** をクリックします。
2. ようこそ **画面、システム アカウント、および新しいユーザー アカウントに言語設定を適用をクリックします**。
3. [ **設定のコピー**] をクリックします。
4. [ **ようこそ] 画面と [システム アカウント**] と [ **新しいユーザー アカウント** ] チェック ボックスをオンにし、[ **OK] を** 2 回クリックします。
5. **[言語]** ウィンドウを閉じます。

コンピューターを Adatum.com ドメインに追加する

1. コントロール パネルで、[**システムとセキュリティ**] をクリックし、[**システム**] をクリックします。
2. [ **システムの詳細設定**] をクリックします。
3. **[コンピューター名]** タブで、**[変更]** をクリックします。
4. [ **コンピューター名** ] フィールドに「 **LON-SVR1**」と入力します。
5. [ **ドメイン] を**選択し、「 **Adatum.com**」と入力します。[ **OK] をクリックします**。
6. **[Windows セキュリティ**] ダイアログ ボックスで、「**ユーザー名**の**管理者**」と入力し、**パスワード**として**「Pa55w.rd**」と入力します。[**OK] をクリックします**。
7. [ **コンピューター名/ドメインの変更** ] ダイアログ ボックスで、[OK] をクリック **します**。もう一度 **[OK] をクリックします** 。
8. [ **閉じる**] をクリックし、[ **今すぐ再起動**] をクリックします。
9. コンピューターが再起動したら、**Pa55w.rd** のパスワードを使用して **Adatum\Administrator** としてログオンします。

その他の設定

1. Windows Updateを無効にしてオフにします。
2. ファイルとプリンターの共有ファイアウォールの例外を有効にします。

PowerShell をインストールする

1. 最新バージョンの PowerShell をインストールします。(この書き込みの時点では、7.1.3 です)。[PowerShell リモート処理を有効にする ] を除く すべてのチェック ボックスを有効にします。
2. インターネットにConnectし、PowerShell 5.1 と PowerShell 7 の両方のヘルプを更新します。(Update-help)

イベント ログをクリアするには

1. コントロール パネルで、[**管理ツール**] をクリックし、[**イベント ビューアー**] をクリックします。
2. **[イベント ビューアー**] ダイアログ ボックスで、[**ログのWindows**] を展開します。
3. **[アプリケーション**] を右クリックし、[**プロパティ**] をクリックします。
4. [ **ログのプロパティ** ] ダイアログ ボックスの [ **最大ログ サイズ (KB)]** ボックスに「 **1028**」と入力し、[ **OK]** をクリックします。
5. **[イベント ビューアー**] ダイアログ ボックスで、[OK] をクリック**します**。
6. **[セキュリティ**] を右クリックし、[**プロパティ**] をクリックします。
7. [ **ログのプロパティ** ] ダイアログ ボックスの [ **最大ログ サイズ (KB)]** ボックスに「 **1028**」と入力し、[ **OK]** をクリックします。
8. **[イベント ビューアー**] ダイアログ ボックスで、[OK] をクリック**します**。
9. **[セットアップ**] を右クリックし、[**プロパティ**] をクリックします。
10. [ **ログのプロパティ** ] ダイアログ ボックスの [ **最大ログ サイズ (KB)]** ボックスに「 **1028**」と入力し、[ **OK]** をクリックします。
11. **[イベント ビューアー**] ダイアログ ボックスで、[OK] をクリック**します**。
12. **[システム**] を右クリックし、[**プロパティ**] をクリックします。
13. [ **ログのプロパティ** ] ダイアログ ボックスの [ **最大ログ サイズ (KB)]** ボックスに「 **1028**」と入力し、[ **OK]** をクリックします。
14. **[イベント ビューアー**] ダイアログ ボックスで、[OK] をクリック**します**。
15. **[アプリケーション**] を右クリックし、[**ログの消去**] をクリックし、[**クリア**] をクリックします。
16. **[セキュリティ**] を右クリックし、[**ログのクリア**] をクリックし、[**クリア**] をクリックします。
17. **[セットアップ**] を右クリックし、[**ログの消去**] をクリックし、[**クリア**] をクリックします。
18. **[システム**] を右クリックし、[**ログのクリア**] をクリックし、[**クリア**] をクリックします。
19. [ **転送されたイベント**] を右クリックし、[ **ログのクリア**] をクリックして、[ **クリア**] をクリックします。
20. イベント ビューアーを閉じます。
21. [コントロール パネル] を閉じます。

ハンドオフのために仮想マシンを準備するには

1. 開発中に作成されたすべてのスナップショットをマージします。
2. 仮想マシンをシャットダウンします。
3. 仮想マシンを c:\Export にエクスポートします。
4. エクスポート フォルダー (C:\Export\VirtualMachineName\Virtual Hard Disks) から MSL 基本イメージと MSL 中間層 VHD を識別して削除します。

**重要**: このビルド ガイドの「仮想ハード ディスク」セクションで、すべての中間層 VHD を特定していることを確認します。コース固有の中間層またはスタンドアロン (モノリシック ドライブ) を作成した場合は、それを引き渡す必要もあります。

1. C:\Export\ に移動し、各仮想マシンのエクスポート フォルダーを圧縮します。

AZ-040T00A-LON-CL1 差分ドライブを作成する

1. **Hyper-V マネージャーの** [操作] ウィンドウで、[**新規**] をクリックし、[**ハード ディスク**] をクリックします。
2. 新しい仮想ハード ディスク ウィザードの [ **開始する前** に] ページで、[ **次へ**] をクリックします。
3. [ **ディスク形式の選択** ] ページで、[ **VHD** ] をクリックし、[ **次へ**] をクリックします。
4. [ **ディスクの種類の選択** ] ページで、[ **差分** ] を選択し、[ **次へ**] をクリックします。
5. [**名前と場所**] ページの [名前] ボックスに**「AZ-040T00A-LON-CL1.vhd**」と入力し、[**場所**] フィールドに**「D:\Program Files\Microsoft ラーニング\AZ040T00\Drives**」と入力し、[**次へ**] をクリックします。
6. [**ディスクの構成**] ページで、中間層 (またはベース) 仮想ハード ディスク ファイルへの完全修飾パスを入力します。 **C** **:\** **Program Files\Microsoft ラーニング\Base\** **Base20E-W10-2004-Office2019.vhd** **、** orclick**Browse** など、親仮想ハード ディスクがあるフォルダーの場所を参照します。(たとえば、c:\Program Files\Microsoft ラーニング\Base\Drives)。[次へ] をクリックします。
7. [新しい仮想ハード ディスクの完了] ウィザードで、[ **完了**] をクリックします。

AZ-040T00A-LON-CL1 仮想マシンを作成する

1. **Hyper-V マネージャーの** **[操作]** ウィンドウで、[**新規**] をクリックし、[**仮想マシン**] をクリックします。
2. 新しい仮想マシン ウィザードの [ **開始する前** に] ページで、[ **次へ**] をクリックします。
3. [**名前と場所の指定**] ページの [**名前] ボックス**に**「AZ-040T00A-LON-CL1**」と入力し、[**場所**] フィールド**に「D:\Program Files\Microsoft ラーニング\AZ040T00\Drives\**」と入力し、[**次へ**] をクリックします。
4. [ **生成の指定** ] ページで、[ **ジェネレーション 1** ] を選択し、[ **次へ**] をクリックします。
5. [ **メモリの割り当て]** ページの [ **メモリ** ] フィールドに「 **4096**」と入力し、[ **次へ**] をクリックします。
6. **[**ネットワークの **構成** ] ページで、ドロップダウン リストから [ **プライベート ネットワーク** ] を選択し、[ **次へ**] をクリックします。
7. **[Connect仮想ハード ディスク**] ページで、[既存の**仮想ハード ディスクを使用**する] をクリックし、[**場所**] ボックスに「**D:\Program Files\Microsoft ラーニング\AZ040T00\Drives\AZ-040T00A-LON-CL1.vhd**」と入力し、[**次へ**] をクリックします。
8. **[仮想マシンの新規作成ウィザードの完了]** ページで、**[完了]** をクリックします。

仮想マシンの起動とConnect

1. **Hyper-V マネージャー**のVirtual Machinesで、**AZ-040T00A-LON-CL1** を右クリックし、[**スタート**] をクリックします。
2. **AZ-040T00A-LON-CL1** を右クリックし、**Connect**をクリックします。
3. 仮想マシンが起動するのを待ち、[仮想マシン接続] ウィンドウで**、Pa55w.rd** のパスワードを使用して**管理者**にログオンします。

ネットワークの設定を構成する

1. **コントロール パネル**を開きます。
2. コントロール パネルで、[**ネットワークの状態とタスクの表示**] をクリックします。
3. ウィンドウで、[ **アダプター設定の変更**] をクリックします。
4. **イーサネット**を右クリックし、[**プロパティ**] をクリックします。
5. [ **イーサネットのプロパティ** ] ダイアログ ボックスで、[ **インターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4)]**、[ **プロパティ**] の順にクリックします。
6. [ **インターネット プロトコル (TCP/IP) のプロパティ** ] ダイアログ ボックスで、上の Classroom 構成表に示すようにネットワーク設定を構成します。
7. [ **OK] を** 2 回クリックし、開いているウィンドウを閉じます。

コンピューターを Adatum.com ドメインに追加する

1. コントロール パネルで、[**システムとセキュリティ**] をクリックし、[**システム**] をクリックします。
2. [ **システムの詳細設定**] をクリックします。
3. **[コンピューター名]** タブで、**[変更]** をクリックします。
4. [ **コンピューター名** ] フィールドに「 **LON-CL1**」と入力します。
5. [ **ドメイン] を**選択し、「 **Adatum.com**」と入力します。[ **OK] をクリックします**。
6. **[Windows セキュリティ**] ダイアログ ボックスで、「**ユーザー名**の**管理者**」と入力し、**パスワード**として**「Pa55w.rd**」と入力します。[**OK] をクリックします**。
7. [ **コンピューター名/ドメインの変更** ] ダイアログ ボックスで、[OK] をクリック **します**。もう一度 **[OK] をクリックします** 。
8. [ **閉じる**] をクリックし、[ **今すぐ再起動**] をクリックします。
9. コンピューターが再起動したら、**Pa55w.rd** のパスワードを使用して **Adatum\Administrator** としてサインインします。

その他の設定

1. 最新の標準に従ってプロファイルをクリーンアップします**。**
2. Windows Update サービスをオフにして無効にします。
3. Windows 10には、次の RSAT オプション機能をインストールします。
   * Active Directory Domain Servicesとライトウェイト ディレクトリ サービス ツール
   * BitLocker ドライブ暗号化管理ユーティリティ
   * DHCP サーバー ツール
   * DNS サーバー ツール
   * グループ ポリシー管理ツール
   * ファイル サービス ツール
   * サーバー マネージャー
4. WMI エクスプローラーをインストールします。
5. 最新バージョンのMicrosoft Edgeに更新します。

PowerShell をインストールする

1. 最新バージョンの PowerShell をインストールします。(この書き込みの時点では、7.1.3 です)。[PowerShell リモート処理を有効にする ] を除く すべてのチェック ボックスを有効にします。
2. インターネットにConnectし、PowerShell 5.1 と PowerShell 7 の両方のヘルプを更新します。(Update-help)

ハンドオフのために仮想マシンを準備するには

1. 開発中に作成されたすべてのスナップショットをマージします。
2. 仮想マシンをシャットダウンします。
3. 仮想マシンを c:\Export にエクスポートします。
4. エクスポート フォルダー (C:\Export\VirtualMachineName\Virtual Hard Disks) から MSL 基本イメージと MSL 中間層 VHD を識別して削除します。

**重要**: このビルド ガイドの「仮想ハード ディスク」セクションで、すべての中間層 VHD を特定していることを確認します。コース固有の中間層またはスタンドアロン (モノリシック ドライブ) を作成した場合は、それを引き渡す必要もあります。

1. C:\Export\ に移動し、各仮想マシンのエクスポート フォルダーを圧縮します。